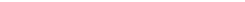
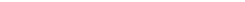
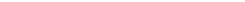
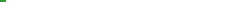
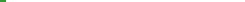
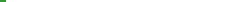
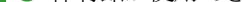
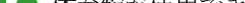
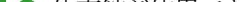
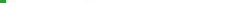
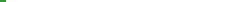
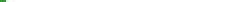
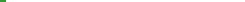
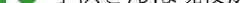
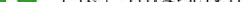
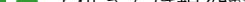
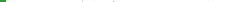
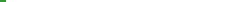
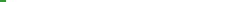
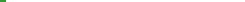
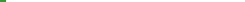
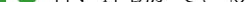
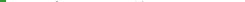
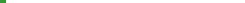
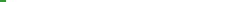
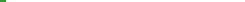
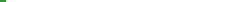
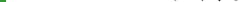
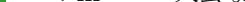
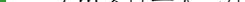
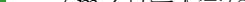
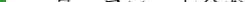
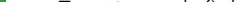
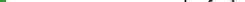
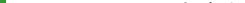
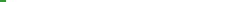
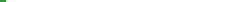
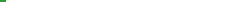
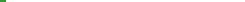
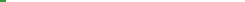
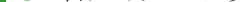
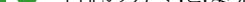
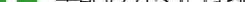
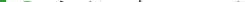
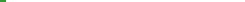
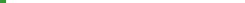
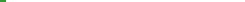
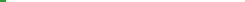
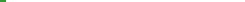
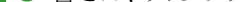
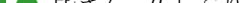
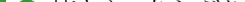
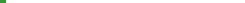
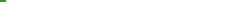
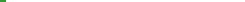
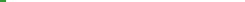
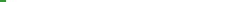
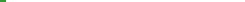
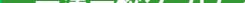
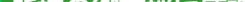
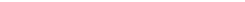
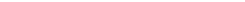
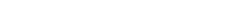
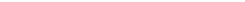
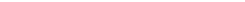


1月 3日(土)午後2時 OB・OG感謝デー 高津高校に集まろう!



昭和30年代中期第1期黄金期

毎年のOB・OG会で過去に大阪府第1位となった話が語り継がれていますが、今般私が持っている手元資料により、皆さんにこの辺りの情報をアーカイブス的にお伝えしてご記憶に留めていただきたいと思い投稿します。あえて第1期と銘打ったのは、この21世紀にできるだけ早い時期に第2期黄金期を創りあげてもらいたいという祈りがこもっているからです。

1. 昭和34年の大阪府大会での2回の優勝

昭和34年3月に「大阪府新人大会」で始めて優勝の栄冠に輝き、3位がベストの定位置の成績で、常にもう一息のところで涙を流し続けていたハンドボール部の歴史上、初めての大坂府第1位を手に入れることができました。このように、昭和34年は、輝かしいスタートを切りました。

この高津の新戦力がさらに力をつけて、続く5月5日に「大阪府民体育祭大会」で優勝を果たしました。その戦いの経過は、次のとおりです。

1回戦	高津19-7住吉高
2回戦	高津10-2佐野工高
3回戦	高津 8-7豊中高
準決勝戦	高津11-6桜塚高
決勝戦	高津12 6-7 9三国ヶ丘高 6-2

省みますと、良くて3位が定位置の雌伏の数年間、夏期合宿や日常の練習において、榎本、津田（関学大）中江（同志社大）等の諸先輩が「地獄の特訓」的練習を我々に実施していただきました。特に、基礎練習という辛い足腰強の訓練（スロー・ダッシュを繰り返す時間の長いインターバルラン、兎跳び等）、それに加えて何回も繰返す実戦形式のフォーメーション訓練、これらは文字通り血の小便が出るような厳しいものでした。

しかし、結果としてこの基礎体力をつける基本訓練（地獄の特訓）の積み重ねが優勝という成果に結びついていたものと考えられます。

これらの猛烈な練習による我等の汗と涙は、高津高のグラウンドの土が充分に吸い込んでおり、また天はこの猛烈な努力を正当に評価してくれました。

2. 昭和34年近畿大会は悔しい第3位

5月の大坂府第1位で「近畿高校ハンドボール選手権大会」への出場権を得て、同月16日・17日の両日和歌山県開催の大会に出場することができました。

しかし、残念ながら強豪の兵庫県代表の兵庫工高（前年の昭和33年度全日本選手権大会第2位高）に準決勝戦でわずか1点差のビハインドで惜敗し、無念の第3位にとどまりました。

試合の経過は、次のとおりです。

1回戦	高津16-10市和商高 (和歌山第2位)
2回戦	高津14-8育英高 (奈良第1位)
準決勝戦	高津 9 5-6 10兵庫工高 4-4 (兵庫第1位)

なお、我が高津に準決勝で勝利した兵庫工高は、同大会で優勝となりました。この準決勝戦は、試合前からの雨上がりの悪コンディションのグラウンドで高津得意のドリブル攻撃が完全に封じられ、また前半試合開始直前のバックスクの拙守により、この1点のビハインドを最後まで跳ね返すことができず惜敗の涙を流したのです。

3. 昭和34年 全日本選手権大阪大会で無念の第2位

同年6月21日の決勝戦において、ライバル高の三国ヶ丘高に先の府民大会での雪辱を無念の1点差で喫し、全日本選手権大会出場の切符を逸しました。

その試合経過は、次のとおりです。

1回戦	高津シード校として不戦勝
2回戦	高津 8-3堺工高
3回戦	高津17-9泉陽高
準決勝戦	高津15-11八尾高
決勝戦	高津 8 2-7 9三国ヶ丘高 6-2



同年8月19日に高松宮ご夫妻を迎えて、山口県下松市・徳山市両市で男子25チーム、女子19チームの全国代表約600人が参加して開催されました。

我が高津クラブは、第1回戦に法政大学と試合しましたが、勝利の女神に見放されてしまいました。この全国大会に高津OBとして出場したという事実をご存知でない方も多くおられると思い、本誌にてお知らせしたいと考えました。

(なお、この全国大会に係わるデータ関係は、私の手元に有りませんので、残念ながら詳細な経過をお知らせすることができません。もし、データをお持ちでしたら、ハンドボールOB会事務局にお届けください。)

6. 後記

今日、「三丁目の夕日」などの映画や各種テレビドラマなどで昭和30年代をテーマとして懐かしむ風潮がみられますが、この時代の流れの中で、アンティークな高津ハンドボール部の30年代の一端をお知らせしました。

第1期黄金時代は、上記のとおり竜頭蛇尾で終わりましたが、21世紀に第2期黄金時代を迎える日が一日も早く到来する祈りをこめて、この拙文を発表します。厳しい鍛錬と部員の努力の結集で大きな成果を生み出す実践をしたことは、高津ハンドボール部の歴史の中で価値有る輝きの一つとしてご記憶いただければ幸いです。

(高校13期 ピテカンこと 渡邊 齊顯)

*参考文献 高津高校PTA新聞(昭和35年2月24日号)、高津新聞(昭和35年6月号)、同(昭和35年7月号)、讀賣新聞(昭和37年8月20日号)

尾上 良宏 校長を訪ねて



2009年6月5日 於 母校校長室

昨年6月、着任早々の第20代 尾上 良宏 新校長を川上会長が表敬訪問され、ハンドボール部顧問の太田先生とともに、クラブ活動へのご支援をお願いしました。